

人口減少社会の現状と 海外人材がもたらす発展

東海大学 万城目 正雄*

人口の減少と在留外国人の増加

1. 人口減少社会

総務省統計局の「人口推計」（長期時系列データ（平成12年～27年））によると、日本の総人口は2008年の1億2808万人をピークに減少に転じている。日本は「人口減少社会」に直面しているが、実際、どれくらいの規模とテンポで人口が減少しているのだろうか。2019年9月20日に公表された「人口推計」（令和元年9月報）によれば、2019年4月現在の日本の総人口は1億2625

*（まんじょうめ まさお）：教養学部人間環境学科社会環境課程 准教授
〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1
TEL：0463-58-1211

表1 日本の将来人口推計

	2015年	2040年	2065年
①総人口	12,709万人	11,092万人	8,808万人
②年少人口 (0～14歳)	1,595万人 12.5%	1,194万人 10.8%	898万人 10.2%
③生産年齢人口 (15～64歳)	7,728万人 60.8%	5,978万人 53.9%	4,529万人 51.4%
④老年人口 (65歳以上)	3,387万人 26.6%	3,921万人 35.3%	3,381万人 38.4%

注1：合計特殊出生率：1.44、平均寿命：男84.95歳、女91.35歳を仮定した中位推計

注2：下段は、総人口に占める構成比

出所：国立社会保障・人口問題研究所（2017）『日本の将来推計人口』より作成

万人。つまり、2008年からの約10年で、日本の総人口は180万人以上減少したことになる。川崎市、神戸市、福岡市といった大都市の人口が、それぞれ150万人程度であると聞けば、日本の人口減少のスピードを想像することができるのではないだろうか。

人口が減少する理由は、少子化の進展にある。厚生労働省「人口動態調査」によると、1970年代初頭には年間200万を数えた出生数が、2016年以降は、100万人を下回り、間もなく90万人を割り込むとしている。さらに、ここで問題となるのは、高齢化が加速していることである。人口構成に占める高齢者の割合が上昇し、2019年4月現在の「人口推計」によれば、総人口に占める65歳以上人口は28.3%（約3.5人に1人）、75歳以上人口は14.5%（約6.5人に1人）に達している。

国立社会保障・人口問題研究所の「将来人口推計（中位推計）」によると、少子化と高齢化を伴う人口減少によって、日本の総人口は、2065年には、日本の総人口は、2015年の3分の2の規模まで、生産年齢人口（15～64歳）は4割以上、減少すると試算されている（表1）。

2. 増加する在留外国人

日本で人口減少社会が進展する中で、日本で暮らす在外留外国人の数は増加している。法務省出入国在留管理庁の「在留外国人統計」によると、2018年末現在の在留外国